



こんな学校・地域に！ ～一中の皆さんに聞きました～

- 「何事にも一生けん命に取り組める学校」（1年 景山理佑さん）
- 「笑顔あふれる明るい学校」（1年 木村咲乃さん）
- 「全員が笑顔で楽しく過ごせる学校」（1年 仁志真実さん）
- 「ルールがきちんと守れる学校」（1年 野坂優里さん）
- 「授業以外も集中して取り組める学校」（1年 山本 煌さん）
- 「目標や夢をかなえるために、一人一人が自分と向き合い、
努力できる境一中にしたい。」（2年 足立一華さん）
- 「いごこちのよい境港にしたい。」（2年 杉原颯斗さん）
- 「一人一人が生活しやすい学校にしたい。」（2年 松浦 詩さん）
- 「あいさつを大きな声でできる学校にしたい。」
（2年 奥森隆太郎さん）
- 「全員が楽しめる学校」（3年 山田 遥さん）
- 「笑顔あふれる学校にしたい。」（金田 徹先生）
- 「地域の中心となって盛り上げられる境一中にしたい!!」
（山本隆介先生）



一中校区学校運営協議会は、地域の子どもたち一人一人の思いや願いがかなうように、これからも応援していきます。皆さんのご協力をよろしくお願いします。

今年も「キャリアアップトーク」(一中1年)

地域に生きる先輩方の話を聞いて自分の生き方を考える1年生の「キャリアアップトーク」が2月2日（金）13時45分～15時35分に一中で行われます。

これは先日の「先輩に学ぶ（講師：岩本和貴さん）」に続く学習で、より多くの先輩方の思いや願いを知ることによって考えを深め、2年生の職場体験につなぐものです。

【お世話になる職種・事業所】

- ・市役所 ・警察署 ・幼稚園 ・図書館 ・史料館
- ・OA機器文具販売 ・菓子製造 ・障がい者支援
- ・薬剤師 ・医師 ・看護師 ・高齢者福祉 ・酒造業
- ・美容師 ・航空自衛官 ・水産加工 ・自動車販売
- ・建築設計 ・ヨガインストラクター ・太陽光発電
- ・インテリアデザイナー （計21）

お忙しい中ご協力いただき、本当にありがとうございます。

一中の先生方は「職業への理解を深めるだけでなく、人の生き方に学び、将来に生かしてほしい」と考えておられます。「よい大人」をめざして今を生きる生徒たちを、地域の大人が後押しします。



一中HP QRコード

一中の3学期始業式から(1/9)

「元日に起きた能登半島地震で多くの方が被災されました。石川県では学校が避難所になっているなどの関係で、学校の4分の1が始業式をすることができません。

境港にも60cmの津波がやってきましたが、幸い被害はありませんでした。しかし「自分に被害がなかったからよかった」というのではなく、被災された人々のことを考え、自分にできることは何か考え行動するようにしてほしいです。そして、まとめの3学期を有意義なものにして下さい。」（森田泰弘校長の式辞より）

『ボランティア元年』

「ボランティア」という言葉が定着したのは1995(平成7)年の阪神・淡路大震災です。個々の活動と共に、平素から地域で人々が繋がることの大切さが認識された年でした。



被災地の映像を背に語る
森田校長

一中生が被災者支援の募金活動

一中生徒会が1月15日から一週間、登校時に募金活動を行いました。「他人事にせず、自分にできることを！」という生徒会執行部の呼びかけに、多くの生徒や先生方が協力しました。集まった募金61,931円は、社会福祉協議会を通じて被災者支援に役立てられます。

※自分たちで何かしたいと思っていたら、先生も方法を調べて下さっていました。実現して良かったです。（濱田湊子さん）

※「赤い羽根募金」に比べて目的がはっきりしているの、多くの皆さんの協力が得られたと思います。（藤井優さん）



津波を観測した検潮所(岬町)

「1月1日22時30分、境で60cmの津波を観測。」

このデータを観測したのが台場下の境水道にある検潮所です。無人の施設で、超音波を水面に発射して反射に要する時間から海面の高さを測定しています。このような施設は目的と設置者によって次の3種類あります。

★験潮場 国土地理院 標高の基準

★験潮所 海上保安庁 船の水路の確保

★検潮所 気象庁 津波や高潮の観測



海面の高さの観測は津波の監視だけでなく、平素の暮らしや航海の安全にとっても大切だということがわかりました。まさに「一中校区の宝物」です。